

京都代協

京都代協(安井義幸会長)は5月28日午後2時半から、京都市下京区の京都経済センターで会員46名(委任状142名、書面表決27名)参加のもと第19期通常総会およびセミナーを開催した。来賓として損保協会近畿支部吉澤篤史事務局長、各損保会社京都支店、支社長らおよび日本代協小橋信彦地域担当理事らが出席した。また役員改正では、竹村泰造副会長が新会長に選出された。

「会員の学びと仲間づくりを推進」

第19期通常総会開く

新会長に
竹村 泰造氏



総会のもよう

佐々木氏がセミナー

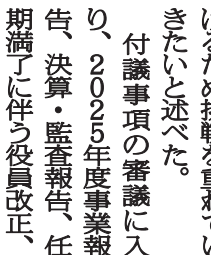
比較推奨販売への対応策等

安井会長は冒頭挨拶で、4年間の会長在任期間を振り返り、80年以上の歴史を持つ業界団体である代協活動を通じて多くの学びと気づきを得たとし、その中で、代理店の地位向上や業界課題への対応を進める上で、代協活動に加え、法的な交渉機能を持つ組織の必要性について理解を深めたと説明。



安井会長

また、近年は保険料改定を背景に、契約者から保険会社や代理店へ説明を求める声が増えており、顧客対応の重要性が一層高まっているとの認識を示した。その上で、代理店の意見や現場の声を業



安井会長

界へ適切に届けるための新たな仕組みづくりに取り組むたいとの考えから、今後は副会長として引き続き活動に参画し、業界



竹村新会長

また、各支部活動の充実を通じて会員同士が学びや気づきを共有し、仲間づくりや組織の一体感醸成につなげていきたいと述べた。さらに、改



佐々木氏

正保険業法への対応に伴うさまざまな課題や事例を共有しながら、会員の事業発展に役立つ学びの場を提供していく考えを示し、協力を呼びかけた。休憩を挟み行われたセミナー「態勢整備の現状と対策」では、セブンス

また、自己点検チェックシートについては、社内規程の整備状況や意向把握・記録の運用、教育・指導体制、記録保存、検証・改善の仕組みなどを定期的に確認すること、が重要だと説明。単に制度へ対応するだけでなく、点検結果を踏まえて継続的な改善につなげることを求められるとし、その上で、「顧客接点の品質向上こそが代理店の差別化につながる」と述べ、変化する環境への対応を呼びかけるなど、参加者に対し業務品質向上に向けた多くの示唆を提供した。

「活躍する地域の代協」

都道府県代協レポートリレー

第79回

三重県代協

代理店経営の持続的発展に向けた

体制整備セミナー開催

三重県代協は、三重県津市内の会場で2026年6月17日、あいおいニッセイ同和損保三重支店との共催で、「代理店経営の持続的発展に向けた体制整備セミナー」を開催しました。すべての保険代理店の募集人を対象とし、代協会員・非会員および募集チャネルを問わず参加を呼びかけ、会場参加とWEB参加の併用形式で99名が参加しました。

今回は2026年6月1日に施行された改正保険業法を踏まえ、2部構成で実施し、第1部では、日本代協アドバイザーの成島康宏氏より「く待ったなし！顧客本位の業務運営」これからの代理店に求められる体制整備」をテーマに講演いただきました。

成島氏は、2026年6月施行の改正保険業法を踏まえ、顧客本位の業務運営を実現するために代理店が取り組むべき体制整備の重要性について、自己点検チェックシートを活用した継続的な業務品質の確認と改善の必要性、代理店価値向上に向けた体制整備の重要性と取り組み方について議論されました。

本セミナーは、2016年の改正保険業法の施行を契機として、2018年に三重県代協として全国初の取組みとして開始し、以降継続的に開催



セミナーのようす

第2部では「今後の代理店体制整備を見据え、加者からは自代理店および募集人が今後進むべき方向性を考える機会として、高い評価をいただいております。

本セミナーは継続的な学びと実践を通じて代理店経営力の向上を図ることを目的としています。目指すのは、保険業法への対応にとどまらない「代理店価値の向上に資する体制整備」です。変化を待つのではなく、将来を見据えて備え、顧客本位の業務運営をあらためて見つめ直し、代理店経営の一層の強化につなげる取組を、三重県代協として今後も継続して開催してまいります。